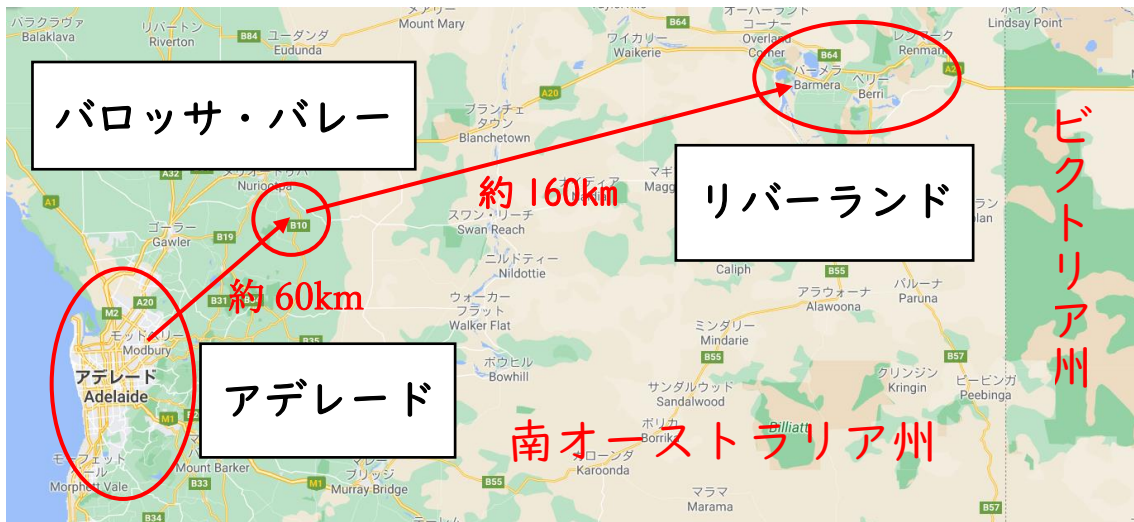


南半球便り（その15）：南オーストラリア州訪問

5月19日

アデレードに行ってきました。南オーストラリア州（以下、「南豪州」。地図は下記）の州都で、全豪5番目の大都市。面積は日本の約2.6倍もあるものの、人口は州全体で約177万人。広大な土地がどう活用されているのか？実地に見てきました。

南豪州を所管するメルボルン総領事館の島田総領事と、アデレードに住む名誉総領事のアダム・ウィン氏他が同行してくれました。



左上：アデレードの位置（出所：freeworldmaps.com）

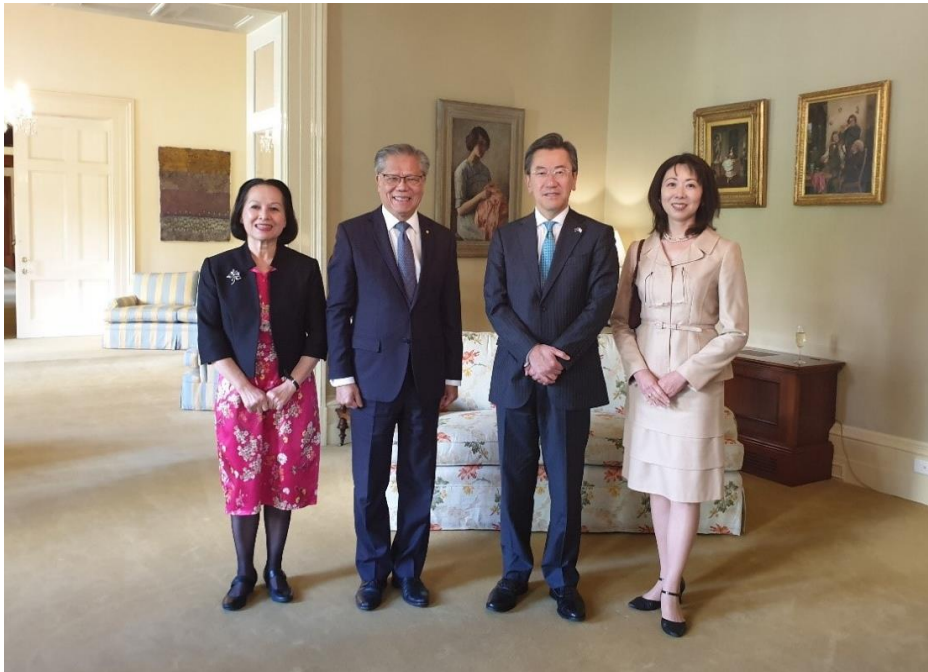
右上：アデレード市内の風景（河川とオーバル）

下：アデレード、ワインで有名なバロッサ・バレー、川下りを楽しめるリバーランド地域の位置

1. 「フリー・ステート」

アデレード出身の人に話すと、「フリー・ステート」という言葉が自信を持って語られます。連邦制の豪州では、州によって成り立ちや歴史が異なります。南豪州では、イギリス本国から送られた囚人による労働で開拓が進んだ他州と違って、囚人ではない「自由な人々」によって、自主的に街作りがなされたという意味合いです。

また、豪州の中で、他州に先駆けてアジア出身の総督が誕生したことにも自負があります。ベトナム生まれで23歳の時に難民として来豪したヒュー・バン・レイ総督です。総督ご夫妻のご配慮で、非常に和やかで楽しい昼食をご一緒することができました。



ヒュー・バン・レイ総督邸にて

2. 日本に対する温かい視線

マーシャル州首相とお会いした際、いきなり日本語で挨拶されたのには驚きました。聞けば、高校時代に日本語のクラスにたびたび遅刻したため、今でもよく覚えている台詞は「遅れてすみません。」の由。見事な「一本」でした。

おろん、同首相による昼食会は遅れるどころか、精緻に時間どおりに進行。その後、州議会の審議を傍聴しました。すると、首相が私達一行の来訪に言及し、昼食時の会話で得た情報を踏まえつつ、日本との緊密な関係を答弁。この気配りと機転には、さすがに唸りました。

また、パターソン州貿易・投資大臣、バン・ホルスト・ペレカーン州エネルギー・鉱業大臣をはじめとする州政府関係者とも意見交換。こうした地元の暖かい歓迎を受けて、三菱自動

車、旭化成ホームズ、日立造船、NEC、アイロムグループ等の日本企業が活躍している状況も視察・見聞し、大いに頼もしく感じました。



マーシャル州首相と州議会議事堂で昼食



州議会のような古風な建物もアデレードの魅力の一つ。旧議事堂などは見学可能。

3. 南豪州ワインを日本へ

州の最大の輸出品目の一つがワイン。豪州全体の生産量の5割を占めます。有名な生産地のバロッサ・バレーで長年ワイナリーを営んできた専門家によれば、南豪州では晴天日が多く日差しも強いいため、丘陵の傾斜や方角に関わらず、日光が豊穡に注がれる由。したがって、その年の天候によって左右されがちな欧州産ワインと違って、安定した出来映えを誇るとのことでした。

問題は、有名ブランド「ペンフォールズ」をはじめとして、南豪州の高級ワインが中国に集中的に輸出され、日本ではなかなか手に入りにくかったこと。現下の問題もあり、今こそ対日輸出努力を強化すべき旨、私からもアデレード大学での講演や地元新聞とのインタビューで呼びかけてきました。【[スピーチ原稿](#)及び[新聞報道](#)は、[こちら](#)でご覧いただけます。】

4. 宇宙・防衛産業

日本とのつながりは、「命の水」だけではありません。昨年「はやぶさ2」のカプセルが回収されたのが南豪州のウーメラであったことを記憶されている方も多いでしょう。豪州宇宙庁本部を擁し、広大な土地を有する南豪州は、宇宙協力の格好の環境です。

一般人も参観できるスペースセンターを訪れた際、愛嬌あふれる「コアラノート」(コアラ(Koala)と宇宙飛行士(Astronaut)をかけたもの(Koala+naut))の宇宙飛行士。写真参照)をプレゼントされました。「将来は日本と協力して、コアラを宇宙に飛ばしたい。」とのオーギージョークに、思わず頬が緩みました。



スペースセンターでプレゼントされた
「コアラノート (Koalanaut)」



(ひまわり9号投影) 人工衛星トラッキング・シミュレーション室

当地で盛んな防衛産業に関して言えば、日本の「そうりゅう型」潜水艦が豪州政府によって採用されなかったのは、返す返すも残念です。将来、何らかの防衛装備品についての協力が日豪間で実現することを強く期待しています。

5. 水素

南豪州は、水素への取り組みも熱心です。アデレードでは、今月から既存の都市ガス設備に水素ガスを一部混入して700世帯に供給する取り組みが始まっています。

また、水素事業を進める州の事業体 (H2U) への三菱重工の出資をはじめとして、日本企業との協力を推進したいとの意気込みが強く感じられました。今後の進展が楽しみです。



都市ガスに供給する水素ガスを製造するプラント (トーンズリー・イノベーション地区)

6. リバーランド

以前キャンベラでお会いした豪州退役軍人協会（RSL）のフィリップス元会長（元陸軍少将）の勧めを受け、アデレードから車で片道3時間もかけて、バーメラ町を訪問しました。その昔ここに所在したラブデー収容所跡を視察するためです。

ラブデーには第二次大戦中、豪州と戦争関係にあった日、独、伊各国の民間人等が抑留されていました。日本人の民間人抑留者は約1000人。地元専門家ガワー女史の説明を受けながらの視察には、感慨深いものがありました。



戦時に日本人も収容されたラブデー収容所跡。

町長（左から2人目）や州議会議員ら（右端、右から3人目）も同行。



町長らが歓待してくれたハウスボート。

川沿いに並んでおり、一般人もこれを借りて川下りをしながら魚釣りもできる。

視察前夜、隣町ベリ町で、ハント町長夫妻に招かれ、豪州で最長の川であるマレー川下りを楽しみながらの船上夕食会に出席しました。リバーランドと呼ばれる地域を周遊。「今までこんなところまで来てくれた外国大使はいない。」と歓迎されました。私からは、「不幸な時期はあったが、今や日豪両国は基本的価値と戦略的利益を共有。まさに『同じ船に乗っている』。」と申し上げたら、町長は大笑、招客で貸切りの船内は盛り上がりました。素朴で気取らない豪州流おもてなしを堪能しました。

嬉しかったのは、翌朝、地元のアボリジニの方から、日の丸をあしらったブレスレット（写真）をプレゼントされたことです。ビーズをちりばめた凝ったつくり。作り手の思いが伝わってきました。「勝負ブレスレット」になりそうです。



日の丸ブレスレット（右写真）をプレゼントしてくれたアボリジニの方（左写真の左）と、ラブデー収容所の地元専門家ガワー女史（左写真の中央）

山上信吾